

## 第 25 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 最終審査(ホール審査) 総評 プロフェッショナル部門

### ●審査員 A

全体的にコンテストの熱意が高く、音楽への気持ちが伝わってくる演奏でした。アンサンブルもとてもよかったと思います。本コンクール、またショパンの音楽を通じて、日本とポーランドのお互いの文化を伝えるよい機会になることを心より願っております。

### ●審査員 B

カルテットの安定した演奏に、ピアニストたちも比較的のびのびと演奏しているように思いました。6人全員がかなりハイレベルの演奏を聴かせていて、出場者全体のレベルが着実にあがっていることが感じられました。

### ●審査員 C

2次審査(ソナタ)に続き間1日でのコンチェルト審査。皆さん全楽章をよく弾きこなされていましたが、ソナタとコンチェルトの2曲を続けて演奏することに無理があったのか、破綻をきたす方もおり、残念に思いました。カルテットをよく聞きバランスの良く演奏された方、合わせる余裕のない演奏と様々でしたが、カルテットとの共演はコンテストにとって勉強になったと思います。安定したテンポで全体としても自然な表現をされ、美しいショパン像を描いている方が賞に結びついたと思います。更に研鑽を積み、次回の派遣コンクールにチャレンジして頂きたいです。

### <コンクール事務局注>

当コンクールでは、ショパンコンクール(ワルシャワ)の開催前年度に「派遣コンクール」を開催しています。次回(第6回)派遣コンクールにおいて「特別推薦者」に選出された3名は、第19回ショパンコンクール(ワルシャワ)の最初の審査である映像審査が免除となり、予備審査からの参加が許可されます。

### ●審査員 D

この部門は間違いなくこのコンクールの中で最も難しく、参加者には非常に高度なものが求められます。3日の間にソナタと協奏曲の両方を演奏することは、どんなピアニストにとってもチャレンジです。だからこそ、プロフェッショナルという部門名が最もふさわしいと思います。

皆さんお疲れさまでした。大変なコンクールだったと思いますが、ほとんどの方が見事に通過されました。数行ですべての見解を述べることは難しいので、そして他の部門とも共通した課題があるので、興味のある方は是非私の他の部門へのコメントも参照してください。ここでは、一つの点に注目してみたいと思います。

ソロの作品と協奏曲では、表現においてどのような違いがあるでしょうか？

ブリランテな若々しい作品とショパンの壮年期のソナタ形式、それもソナタ作品 58 のような晩年のソナタとの解釈の違いは何でしょうか？

答えは人によって少しずつ異なるでしょう。しかし何かしらの違いがあるはずで…もし違いが見つからなければ、何かが欠けているのかもしれませんが…

これらの問い、そしてその他の問いに対する答えを探し求める時間が、あなたにとって素晴らしいものになることを祈っています。

#### ●審査員 E

素晴らしい演奏をありがとうございました！

以下について、更に心がけてみてください。

コンサートホールでの音の出し方

レガートの質

より色彩豊かな演奏

感情表現

P と pp、f と ff の違いに注意する

ニュアンスのあるペダリング

各声部をバランスよく際立たせる

#### ●審査員 F

2次審査（ソナタ）と最終審査（コンチェルト）の日程が近く、分量的に大変だったかと思いますが、両方をきちんと準備されていた方とそうでない方で評価が分かれたように思います。暗譜が飛んでしまった方が多かったのが残念ですが、コンチェルトは一人だけで対処できることではないので、いかなる場合でも大丈夫なように周到に準備すべきです。演奏そのものはレベルが高くよかったです。